



[右] D&Dを一躍有名にしたトラバイの「cucù」。
[左] フィリップソンの「oora」は、微妙に角度の
ついたチェストの背に蛍光塗料を配し、壁面に
うっすらと“色の影”が映り込む
www.diamantinidomeniconi.com



外部デザイナー起用で生まれ変わる企業

Diamantini & Domeniconi

取材・文／編集部
TEXT by DESIGNERS' WORKSHOP

森の動植物の姿を一枚のスチール板上に切り絵のように描き出した「cucù」（写真左上、日本では「Cuckoo Forest」で販売）。ややもすると伝統的なアイコンになってしまう鳩時計を現代的な手法で見事にリデザインしたこのアイテムは、日本のインテリアショップでも多く販売されている人気商品だ。この製造元である、ディアマンティーニ&ドメニコニー社（以下、D&D）は、創業当時から40年近く「クラシックスタイル」の装飾時計を手がけてきたイタリアのメーカー。それが、こうした現代的なラインナップに転換したのは、およそ3

年前のことである。

D&Dの流れを大きく変えたのは、レバノン出身の建築家&デザイナー、バスカル・トラバイの存在だった。ミラノサローネのサテリテに出展していた際、トラバイの実力に注目した同社は、トラバイのフリーランスとしての活動を認めながら、同社の商品デザインディレクターとして起用。トラバイは「cucù」をはじめとする新しいタイプの壁掛時計のデザインを発表しながら、D&Dがインテリアブランドとしてさらなる成長を図れるようにと、ほかのデザイナーとも協働するように同社に

要望。現在、同社は8名の外部デザイナーとコラボレーションを続けている。

「どれだけ高度な技術をもっていても、現代性（同時代性）を理解することができなければイノベーションは生まれません。新しいアプローチさえあれば、ストレートな表現をキープすること、つまりは伝統を保持しながら新しい商品をつくり出すことは決して難しいことではない」とバスカル・トラバイが語るように、企業側の理解とデザイナーの積極的な取り組みがうまく融合したことにより、D&Dは大きな飛躍を遂げたのだ。

現在D&Dは壁掛時計のみならず、ドイツ出身のスザンヌ・フィリップソンが手がけるチェスト「oora」（右上）ほか、大物の家具にも触手を伸ばしはじめている。



バスカル・トラバイによるコートハンガー「hil」（左）とフィリップ・ベステンハイダーによるモジュール家具「isomer」（右）



バスカル・トラバイ（右）は、1970年レバノン・ベイルート生まれ。D&Dのほか、バンドラデザインなどと協働している。一方、ドイツ・ザイフェナードルフ生まれのスザンヌ・フィリップソン（左）は、MUJIやドログデザインのプロジェクトにも参加した経験をもつ